

博士論文

ビデオモデリングおよびビデオフィードバックを用いた自閉性スペクトラム障害児への行動支援

自閉性障害児者への支援は、1960年代から様々な方略が開発されてきている。その中でも、自然な環境下で学習することが可能な観察学習については何度も言及が成されているが、自閉性障害の認知特性から、観察学習の困難さも合わせて報告されている。ところが、近年、ビデオを用いた観察学習手続きによって、自閉性障害児でも観察学習が可能であると報告されている。

以上より、ビデオを用いた観察学習手続きとして、VTRを手がかりとした観察学習であるビデオモデリング、VTRによって自己行動の評価と修正を行うビデオフィードバックの2点の先行研究を概観したところ、臨床的効果が述べられている一方で、1.なぜ効果的であるのか検討が成されていないこと、2.行動変容のどの部分に対して寄与しているのか不明であること、3.適用できる対象の吟味が成されておらず、特にビデオフィードバック手続きでは、知的な遅れのない高機能群のみが対象とされていることが問題点として推測された。

そこで、本研究では、ビデオモデリングおよびビデオフィードバック手続きの有用性を説明可能な応用行動分析の枠組み（三項随伴性）から考察し、臨床応用性を模索することを目的に、以下、研究1～研究5を行った。

研究1：ビデオモデリング手続きの検討

研究1では、知的障害を伴う自閉性障害児1名の余暇活動スキルの獲得のために、ビデオモデリング手続きを導入した。標的行動は神経衰弱、ババ抜きの実施行動とした。まず、各ゲームの実施行動について課題分析を行い、それぞれ8つの行動に分解し、手順を表したマニュアルを作成した。マニュアルは場面の写真とやるべき行動が文字によって提示されていた。マニュアルでの訓練が終了した後、ビデオモデリング手続きが導入された。

結果、マニュアル訓練だけでは、訓練者からの音声プロンプト（「次は何だっけ？」）が無ければ、適切な標的行動が生起しなかった。しかし、ビデオモデリング手続きを導入したところ、訓練者からの音声プロンプトがなくとも、各標的行動の自発的な連鎖が見られた。以上より、ビデオモデリング手続きには、①文章の理解が必要ないため、知的な障害を伴う児童にも適応可能であること、

②ビデオ教材への積極的な注視行動が見られたこと，③行動獲得した後の行動連鎖の形成に大きく影響を与えることが肯定的効果として報告された。

研究 2：ビデオフィードバック手続きの検討①

研究 2 では、重篤な知的障害を持った児童に対するビデオフィードバックの有効性，並びに臨床適用の可能性について検討することを目的に、重度の知的障害を抱えた児童の対人への不適切な関わり行動について、個別のビデオフィードバック手続きを利用した行動修正プログラム導入した。本研究の参加児は、機能的な言語の使用に大きな障害を抱える 6 歳 5 ヶ月の自閉性障害児 1 名であった。問題行動として、知らない女性の身体を触ってしまうことが報告されていた。そこで、行動修正のために、個別の療育場面にてビデオフィードバック手続きが導入された。ビデオフィードバック手続きは、参加児が標的行動（女性の身体を触る）を表出した場面を VTR として提示し、トレーナーの「触っては……」のプロンプトの後に自己評価（「いけません」）を促した。

結果、ビデオフィードバック手続き導入前にはセッション内で散見されていた問題行動が、ビデオフィードバック手続き導入後に、顕著な改善を示した。そして、この改善効果は少なくとも 3 ヶ月間維持された。以上より、ビデオフィードバック手続きは、①重篤な知的障害を抱えた自閉性障害児にも有効であること、②自己行動の振り返りが難しい児童に対しても導入が可能であることなどの有効を持つと考える。

研究 3：ビデオフィードバック手続きの検討②

本研究では、行動問題の中でも言語での指示や不要物の撤去のような方略では解決できない高頻度な問題行動に対する、ビデオフィードバックの有効性について検討するために、アスペルガー障害児による不適切行動の低減を目的としたビデオフィードバック手続きを導入した。研究開始時、生活年齢 10 歳の男児 1 名を実験参加者とした。参加児は、療育プログラム内での学校でのできごとについての言語報告場面において行動問題が見られ、円滑なプログラムの実施が難しい状態であった。そこで、言語報告場面での不適切行動を低減するために、過去に生起していた不適切行動の VTR を参加児に提示し、本人自身に評価用紙での自己評価を行った。

結果、保護者やメイントレーナーからの言語での制止、環境調整などでは大

きな改善が観察されなかった強い不適切行動の頻度が、ビデオモニタリング手続きを導入することとで大きく減少し、その効果は数ヶ月間観察された。重篤な行動問題に対して、ビデオフィードバックは、①バックアップ強化子が行動の変容に必ずしも必要ではないこと、②自己行動の正確な想起および振り返りが必要ななかったこと、③行動変容に対する嫌悪反応などの情動反応が認められなかったことなどの機能が存在すると示唆された。

研究4：ビデオフィードバック手続きの検討③

研究4では、ビデオフィードバックの臨床応用性を検証すべく、自閉性障害児3名から成る小集団活動へ介入を行った。自閉性障害を含む軽度～中度の知的障害を抱える7歳の児童3名を本研究の参加児とした。共通した行動特徴として、こだわりの強さ、一方的な会話、話し合いなどの目的性のある言語活動の苦手さを持っていた。以上の特徴を踏まえ、参加児3名によるディスカッション場面での不適切行動を本研究の標的行動として設定した。ディスカッション場面では、遊び、勉強、お手伝いの3分野で行う活動を話し合いで決定することが求められた。ディスカッション場面が終了した後、直前のディスカッション場面のVTRを利用した集団ビデオフィードバック手続きを導入した。集団ビデオフィードバック場面では、3名でのディスカッション場面を見ながら、自己の行動に対して、点数による自己評価を行った。

結果、ビデオフィードバック導入前には、3名全員において、離席や暴言、勝手な発言などの不適切行動が、話し合い全体時間の半分以上を占めることも散見された。しかし、ビデオフィードバックが導入されると、不適切行動は大きく減少し、意見を譲るなどの適切な行動も生起するようになった。以上より、知的な遅れを抱える児童による小集団のビデオフィードバックには、①知的な遅れを抱えていてもVTRを用いることでセルフモニタリングが可能となること、②ビデオフィードバックが小集団にも適用可能であること、③不適切行動だけでなく、適切行動の形成にも効果的であることなどが示された。

研究5：モデリングおよびビデオフィードバックによる支援者介入

研究1～4内容を踏まえ、研究5では、自閉性障害児を支える支援者を対象として、モデリングおよびビデオフィードバックの訓練効果、および定型発達者への効果を検討した。対象児は7歳11ヶ月のアスペルガー障害児であり、ス

タフトトレーニングを受けるスタッフは大学4年生3名であった。訓練対象となった場面は、参加との1対1で行う離散試行型訓練によるマッチングおよびタクト課題であった。スタッフトレーニングとして、初めにマニュアルによる訓練を行った。マニュアル導入後、数セッションの後に、熟達者のセッションを見学するモデリング訓練と、自身の離散試行型訓練をVTRにて視聴する、ビデオフィードバック訓練を導入した。

結果、スタッフの離散試行型訓練実施スキルは、マニュアル訓練導入後ではあまり改善されなかったが、モデリング訓練およびビデオフィードバック訓練後に大きな改善を示した。また、スタッフのうち1名には、マニュアル訓練が負の影響を与えていた。しかしながら、そのスタッフもモデリング訓練・ビデオフィードバック訓練後には、他の2名と同程度までスキルが改善した。以上より、①モニタリングおよびビデオフィードバック手続きが、複雑な行動の獲得に強い促進効果を持っていたこと、②モニタリング、ビデオフィードバック手続きが定型発達者にとっても効果的な訓練手続きであったことが示唆された。更に、マニュアル手続きによって流暢性が低下したスタッフがモデリング訓練およびビデオフィードバック訓練でスキルの改善が見られたことから、③モデリングおよびビデオフィードバック手続きが、行動の連鎖化を促進すると結論付けられた。

総合考察

以上の研究1～5より、ビデオモデリング手続きについては、I)知的障害児者だけでなく、提携発達者の行動獲得にも重要な手続きであること II)行動の連鎖化の促進に効果的であることが示された。この効果には、ビデオが繰り返し提示できる点、比較的刺激が統制されているため、重要性の検出に問題を抱える自閉性障害児でも学びやすい点が寄与していると考えられる。ビデオフィードバックについては、I)自己行動の振り返りが難しい様な児童でも、自己行動を先行事象とした振り返りが適切に行えること、II)行動変容を求めること自体に大きな嫌悪を抱えている児童に対しても有効な手段であることが示された。随伴性の観点から考察すると、I)では、ビデオを用いることで、自己行動を確実に先行事象として扱えること、II)では、VTRは教材として嫌悪刺激から独立しているため、過去の情動条件付けの影響を回避できることなどが示唆された。

この結果を踏まえ、今後の研究では、ビデオモデリング・ビデオフィードバ

ックで身につけた他者模倣や自己行動を先行刺激とした自己評価行動を、VTR教材というプロンプト抜きで生起するための条件や訓練方略の開発が求められるだろう。